

極東精機製作所、安久工機など4社 10倍速3Dプリンタ開発

極東精機製作所、モノづくりベンチャーのグーテンベルク、安久工機、久宝金属製作所（大阪市）で構成する中小企業グループ「3DXs（スリーディーエクス）」は、市販品の10倍の造形速度を誇る樹脂3Dプリンタ「グーテンベルクゼロ（G-ZERO）」を開発。10月29日、31日に大田区産業プラザ（P10）で完成披露会を開催した。

G-ZEROは、ヘッドの最高到達速度が毎秒約500ミリメートル、加速度は2万ミリメートル毎秒毎秒。精密板金加工など町場の技術を駆使し、強靱な筐体を製造したことで、ハイスピードで



G-ZEROの高速造形に興味深く見つめる来場者

もプリンタヘッドがぶれずに精密な加工を実現した。造形速度、加速度ともに一般的な3Dプリンタの5倍から10倍の早さとなる。造形可能サイズは横約250ミリ前後約210ミリ×高さ約200ミリメートル。本体サイズは横430ミリ×縦400ミリ×高さ460ミリメートル。本体重量は30キログラム。

極東精機製作所の3階に同居するグーテンベルクの李丞株社長が開発を着想し、3社に共同

開発を持ちかけて完成に至った。グーテンベルクは事業の中核として設計・製造・販売を担当し、安久工機と久宝金属製作所は設計支援を、極東精機製作所が製造を担当した。

極東精機製作所、グーテンベルク、安久工機、久宝金属製作所の4社はG-ZEROの開発・販売にあたり、3DXsというチームを結成。3Dプリンタの3Dモデルを組み合わせたほか、「3Dプリントスマートフォン」や「3Dプリント（次元）「Digital（デジタル）」価格も妥当ではない

4社は2022年2月から、それぞれ販路を通じてG-ZEROを販売していく予定だ。企業

10月29日、31日に大田区産業プラザの3階特別会議室で完成披露会を開催した。29日は企業が、31日は企業と個人向けに開催。新型コロナウイルスの感染防止の観点から来場予約制での開催となった。両日とも満員で、29日は予約の2倍となる約80人が来場。31日も、あいにくの雨にもかかわらず、予約を上回る人が訪れた。来場者は高速造形するG-ZEROを実際に眺めつつ、その性能に驚嘆していた。職場で3Dプリンタを使い個人でも3Dプリントを所有しているという堀内雄登氏は「3DXsなどで情報は得ていたが、改めて造る。価格はグーテンベルクによる販売ターゲットとして想定している。価格はグーテンベルクによるサポート込みで100万円（消費税抜き）。年間100台の販売を目指す。

今後の展開についてと語った。検証しなくてはならぬ安全対策やメンテナンス性などを改めて求めたいという想いを込めてい

て極東精機製作所の鈴木亮介社長は「両日とも、予想以上に人が来場頂き驚いた。今後は展示会などでG-ZEROをPRし、2月の発売に向けた準備をしたい。まだ構想段階だが改良型のG-1（仮称）についてもメンバーで話し合っていきたい」とコメント。グーテンベルクの李社長は「G-ZEROをきっかけに設計者と加工者をつなげる仕事をしたい」と意欲を見せた。

安久工機の田中宙常務は「来場者の熱気にびっくりした。今後は量産設計も手伝っていく」と、久宝金属製作所古川多夢代表取締役は「関西のお客さんに売っていくが、拡販を急いではいない。あくまで質を追い求め、お客さんの役に立つ商品でありたい」とそれぞれ展望を語った。



大田区発で製造業の改革を目指す3DXs

ワーク・ライフ・バランスセミナーを開催します

大田区では、令和4年11月26日(水)に企業向けワーク・ライフ・バランスセミナーを開催します。本年度の講演会は、オンラインで開催しますので、職場やご自宅で気軽に参加いただけます。新型コロナウイルス感染症をきっかけに生活様式や働き方が大きく変化したことで、ワーク・ライフ・バランスのあり方も変化しています。コロナ禍の中での働き方やワーク・ライフ・バランスを

実践するためのヒントなど、区内で活躍されている社会保険労務士を講師にお迎えしてお話しいただく予定です。講演のテーマや申込方法、参加方法などは今後、区のホームページやチラシなどでお知らせします。ぜひご参加ください。

▶問合せ先 大田区 総務部 人権・男女平等推進課
電話 03-5744-1610